

人民共和國

■ 資料集 ■

【原典中国現代史】

8巻。岩波書店，1994-1996年。各巻の構成は，第1巻『政治』上，第2巻『政治』下，第3巻『経済』，第4巻『社会』，第5巻『思想・文学』，第6巻『外交』，第7巻『台湾・香港・華僑華人』，第8巻『日中関係』である。読者が原典資料に即して現代中国の歩みをたどることができるように，それぞれ最も基本的な資料の最も重要と思われる箇所を選んで，それらが発表された背景や意義に関する解説とともに紹介する。別巻として『中国研究ハンドブック』がある。

【新中国資料集成】

5巻，日本国際問題研究所・中国部会編，1963-1971年。第2次世界大戦終了前後から1958年までの中国の政治・経済・軍事・外交などに関する基本的資料を翻訳・収録する（第1巻「解題」）。第1巻（1945年から1947年，130資料）～第5巻（1955年8月から1958年2月，61資料）。

【中国大躍進政策の展開】

上下2巻，日本国際問題研究所中国部会編，日本国際問題研究所，1973-1974年。1958年2月から1960年4月までの政治・経済・軍事・外交・文化・教育等の基本資料を編纂・翻訳し，解説を付加する（131+4文献を収録）。

【中ソ論争主要文献集】

欧ア協会編（外務省国際資料部監修），日刊労働通信社，1965年。1964年10月のフルシチョフ失脚にいたる中ソ論争関係資料（基本資料15件，

中共関係資料 57 件，ソ連関係資料 71 件）を収録する。また『続中ソ論争
主要文献集』（北東出版宣伝，1967 年）は，1966 年 12 月までの資料（中共
関係資料 39 件，ソ連関係資料 37 件）を収める。

【文化大革命に関する邦文の資料集】

①新島淳良編『毛沢東最高指示 プロレタリア文化大革命期の発言』三一
書房，1970 年；②東方書店出版部編『中国プロレタリア文化大革命資料集
成』全 5 巻+別巻（年表）1，東方書店，1970-71 年；③竹内実編『ドキュメ
ント現代史 16 中国文化大革命』平凡社，1973 年；④加々美光行編『資料 中
国文化大革命—出身血統主義をめぐる論争』りくえつ，1980 年。②は中国当
局の公表文献のみを集めたものであり，他は未公開資料も収めている。④は
表題が示すとおり，編者独自の観点から文革に迫ろうとしている。[現代中
国研究案内]

【日中関係基本資料集 1949 年～1969 年】

外務省アジア局中国課監修，霞山会，1970 年。20 年間における中国政府
の対日政策の推移を明らかにすることを主要な目的として中国政府側の資
料を多く収録し，日本資料は必要最小限にとどめている。1.日中間の政治・
外交関係，2.日中間の貿易・漁業関係等，3.中共地区残留邦人引揚関係，4.そ
の他，に関する 126 資料を収録。また『日中関係基本資料集 1970 年～1992
年』（霞山会，1993 年）は上記資料集の続編で，192 資料を収録する。

【中国共産党最新資料集】

上下 2 巻，太田勝洪・小島晋治・高橋満・毛里和子編，勁草書房，1985-
1986 年。1978 年 12 月の中共 11 期 3 中全会から 1984 年 10 月の 12 期 3 中全
会までの重要文献 106 件と参考資料 5 件を収録。

【チャイナ・クライシス重要文献】

3 巻，矢吹晋編訳，蒼蒼社，1989 年。「経済改革のもたらした経済危機が

政治的危機、体制的危機に発展した中国について、その動態を分析するために可能なかぎりの資料を収集し、編集・邦訳した」（凡例）。「I.胡耀邦総書記失脚の場合」から「XVI.民主化“動乱”始末」まで 270 文献を収録。

* * *

【建国以来重要文献選編】

20 冊，中共中央文献研究室編，中央文献出版社，1992-1998 年。建国から「文化大革命」前夜にいたる時期の，中共中央・全国人民代表大会・政務院と国務院・中央軍事委員会が出した基本文献，それらが各所轄部門に示達した重要文献，中央の指導者・部門責任者が発表した重要講話・文章，中央の意向を伝達する重要な社論，および歴史的に少なからず影響を与えたあるいは重要な理論的意義を有する非公式文献・講話記録を収録（第 1 冊所収の「出版説明」）。第 1 冊（1949-1950）～第 20 冊（1965）。

【農業集体化重要文件匯編】

2 冊，国家農業委員会弁公庁編，中共中央党校出版社，1982 年。土地改革，合作社運動，人民公社，生産責任制政策など，1949 年から 1981 年までの農業に関わる中央の重要決議や指示，リーダーの重要講話などを収録した内部（党内発行）の資料集である。

【中国共産党組織史資料：1921-1997】

中共中央組織部ほか編『中国共産党組織史資料：1921-1997』9 卷，附卷全 4 卷（中共党史出版社，2000）は，共産党結党から 1997 年の共産党第 15 回大会にいたる時期の共産党中央とその指導下にある政権・軍隊・統一戦線・大衆団体の組織に関する史料集である。各組織の沿革と名称の変化，および構成員の在職期間を記す。1984 年から中央党史資料徴集委員会を中心に編纂作業が進められたが，1988 年の党史研究室改組の後，共産党の中央組織部が主導的役割を担うことになった。この史料集（中央巻）刊行から 1999

年までに、中央、省、地区、県4級3067部の組織史資料が出版された【解題2】。組織史資料の編纂作業は、現在も引き続き進行している。[田中]

【中国当代政治運動史数拠庫：1949～1976】

宋永毅（カリフォルニア州立大学ロサンゼルス分校図書館）を中心に、アメリカ在住の中国系研究者が中台の学者とともに構築したデータベースで、香港中文大学中国研究服務中心の技術協力で、CD-ROMも発売されている。データベースは、9089篇を収める「中国50年代初中期的政治運動資料庫・從土地改革到公私合營：1949-1956」（美国哈仏大学費正清中国研究中心，2014年），10102篇を収める「中国反右運動数拠庫：1957-」（香港中文大学中国研究服務中心，2010年），6024篇を収める「中国大躍進一大飢荒数拠庫：1958-1962」（香港中文大学中国研究服務中心，2013年），6749篇を収める「中国文化大革命数拠庫：1966-1976」（香港中文大学中国研究服務中心，2002年）という独立した4つのサブ・データベースから構成されている。

【反右絶密文件】【千名中国右派的处理結論和個人檔案】

12巻と6冊、いずれも宋永毅（カリフォルニア州立大学ロサンゼルス分校図書館）主編、国史出版社，2015年。宋を中心に、アメリカ在住の中国系研究者と中国大陸の学者をメンバーとする「中華人民共和國檔案編委会」によって編集された。両者とも反右派運動についての史料集である。『反右絶密文件』は当時中共中央弁公庁が出した極秘文書「情況簡報（整風專輯）匯編」（1957年6月30日-1958年4月29日，計65期約300万字）を12巻に分けて完全収録。『千名中国右派的处理結論和個人檔案』は中共中央監察委員会弁公庁が1958-1960年に出した極秘文書「關於清除党内反右派分子的決定匯編」（個人檔案285件）のほか，1000件近くの右派分子の処分決定を6冊に分けて収録している。

【新編紅衛兵資料（*A New Collection of Red Guard Publications*）】

20 vols (Part I: Newspapers), edited by Yuan Zhou, Center for

Chinese Research Materials, 1999. 紅衛兵および大衆組織が発行した小新聞約 400 種, および軍事機関・軍系統の紅衛兵・大衆組織が発行した小新聞約 80 種を収録する。[田中]

【内モンゴル自治区と文化大革命：モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料】

既刊 9 冊, 楊海英編, 風響社出版, 2009 年-。本資料集は内モンゴル自治区で行われた中国文化大革命に関する第一次資料を解説し, 影印したもの。各巻の内容はつぎのとおり。第 1 冊「滕海清将軍の講話を中心に」, 第 2 冊「内モンゴル人民革命党肅清事件」, 第 3 冊「打倒ウラーンフー（烏蘭夫）」, 第 4 冊「毒草とされた民族自決の理論」, 第 5 冊「被害者報告書 (1)」, 第 6 冊「被害者報告書 (2)」, 第 7 冊「民族自決と民族問題」, 第 8 冊「反右派闘争から文化大革命へ」, 第 9 冊「紅衛兵新聞(1)」。

【大陸地下刊物彙編】

20 輯, 中共研究雜誌社編（「中共研究参考叢書」）, 1980 年～, 台湾・中共研究雜誌社。『探索』『四五論壇』『人民之声』『啓蒙』『求是報』など, 「北京の春」期に中国で発行された民間出版物を収録。組版は原版の「横組み・簡体字」を「縦組み・繁体字」に改める。[田中]

【俄羅斯解密檔案選編：中蘇関係】

12 巻, 沈志華編, 東方出版中心。2015 年。1945 年 1 月～1991 年 12 月の中ソ関係に関するロシア文書館所蔵文書（中ソ両党・両国政府間の電報・書簡・照会, 会議記録・談話, ソ連共産党幹部会の記録・報告, ソ連党・政府の決議・指令・通知, ソ連駐中大使館関連文書, ソ連共産党と各国共産党との関連文書など）2625 件を中国語訳して収録する。[田中]

【中華人民共和国史編年】

当代中国研究所は, 人民共和国史に関する研究・編纂・出版と関連史資料

の収集と整理を目的として 1990 年に設立された。該書は当代中国研究所による編年体歴史書で、各年 1 巻としこれまでに「1949 年巻」から「1962 年巻」までの 14 巻が刊行されている。(1)月日と史事を明示する「綱文」、(2)大事始末を叙述する「目文」、(3)重要人物のプロフィールと諸説が存在する際の「注釈」、(4)「文献」、(5)「図」からなる。[田中]

■ 著作集など ■

【『毛沢東選集』第 5 巻と毛沢東関連史料】

毛沢東は、読者に内容・叙述の両面で完璧なテキストを提供したいと考え、自らの著作に系統的な改訂を加えた。人民共和国成立後に編纂・出版された『毛沢東選集』（人民出版社、1952-1960）に収録された文章に、彼自身の同意とリーダーシップのもとで系統的な補充と改訂が施されていたことはよく知られている。毛沢東なき後、「二つすべて」（毛沢東が行ったすべての決断を断固堅持しすべての指示に一貫して従う）を掲げる華国鋒指導部による『毛沢東選集』第 5 巻（人民出版社、1977）は、1949～1957 年の重要著作 70 篇を収録して 1977 年 4 月に刊行した。収録されたテキストなどについての疑義を収める有効なロジックを欠き、華は「真理の基準」論争に敗北する。このことは第 5 巻のイデオロギー的正当性の喪失を意味していた。

1991 年、『毛沢東選集』の注釈部分を改定した第 2 版（全 4 巻、人民出版社）が刊行された。この後、毛沢東生誕 100 周年を記念して刊行を始めた『毛沢東文集』全 7 巻（人民出版社、1993-1997）は、1921～1976 年の文稿を「改訂を行わず、誤字・脱字は注記を付す」かたちで収録する。また『建国以来毛沢東文稿』全 13 冊（中央文献出版社、1987-1988）は、(1)手書き文書（文章、指示、講話要綱、コメント、書簡、詩詞、文書への加筆）、(2)彼自身が認可した講話や談話記録、(3)彼自身が認可し彼自身の名前で出されたその他の文書を収録する。さらに『建国以来毛沢東軍事文稿』全 3 巻（軍事科学出版社ほか、2010）は、電報、指示、講話、談話、書簡、題辞など 821 篇を

収録する(91篇が初出)。このほか『毛沢東軍事文集』全6巻(軍事科学出版社ほか,1993),『毛沢東西蔵工作文選』(中国文献出版社ほか,2008),『毛沢東新聞工作文選』(新華出版社,1983),『毛沢東文芸論集』(中央文献出版社,2002)などがある。

さらに『毛沢東年譜(1893-1949)』全3巻(中央文献出版社,2002),『毛沢東年譜(1949-1976)』全6巻(中央文献出版社,2013),『毛沢東伝(1893-1949)』(中央文献出版社,2004),『毛沢東伝(1949-1976)』全2巻(中央文献出版社,2008)が刊行されている(いずれも中共中央文献研究室編)。これらは中央档案馆が所蔵する一次文献をふくむ多様な方途のもと精緻な考証による編纂がなされている。[田中]

【毛沢東の秘められた講話】

マックファーラーほか編(徳田教之ほか訳),上下,岩波書店,1992,1993。同書は,百花斉放期と大躍進期における毛沢東の未公開発言の日本語訳である。原著(MacFarquar ed.,1989)は,アメリカの研究機関が収集した共産党関連史料から1957年と1958年の毛沢東発言19篇を英訳して収録する。邦訳では,この英訳テキストを参照しながら典拠となった中国語の原典からの翻訳をおこなうとともに,(1)毛沢東著作年表(1934-68年),(2)19篇に関するテキストの異同を整理する。

【鄧小平文選】

鄧小平の言行をまとめた公式文献集。いずれも人民出版社から出版された。最初のものは1983年に出版され,75年から82年9月までの講演・指示がまとめられている。89年に出版された文選は,38年から文革で失脚する65年までの鄧の言行を収録する。93年出版の文選には初めて第3巻と巻数がつき,それまでの2巻は遡ってそれぞれ第1巻,第2巻と呼ばれるようになった。この第3巻は82年9月から92年9月までの講演・指示などが収められ,92年初頭の南巡講話が巻末に置かれている。[岩波現代中国事典]

【指導者の選集・文稿・年譜・伝記】

中央文献編輯委員会・中央文献研究室などによる毛沢東以外の指導者の選集・文稿・年譜・伝記には次のようなものがあり、多くは中共関係のウェブサイトで公開され、全文閲覧できる（「ウェブサイト」項目を参照）。[選集]：『周恩来選集』全2巻（人民出版社，1980），『朱徳選集』（人民出版社，1983），『陳雲文選』全3巻（人民出版社，1995）。[文稿]：『建国以来周恩来文稿』全3冊（中央文献出版社，2008。1949年6月～50年10月の文章，電報，書簡，コメント，題辭約1000編を収録），『建国以来劉少奇文稿』全7冊（中央文献出版社，2005，2008。[年譜]：『周恩来年譜（1949-1976）』全3巻（中央文献出版社，1997），『劉少奇年譜（1898-1969）』全2巻（中央文献出版社，1996）。[伝記]：『周恩来伝（1898-1976）』全2巻（中央文献出版社，2008），『劉少奇伝（1898-1969）』全2巻（中央文献出版社，2008）[田中]

■ 定期刊行物 ■

【北京週報】

外国語で中国の時事ニュースを伝える週刊紙。1958年周恩来総理の提議によりまず英文版が創刊され、63年、日、仏、独、スペイン語の各版が出版された。重要文献が全文掲載されることも多く、資料価値は高い。[岩波現代中国事典] 日本語版は2000年12月号で発行停止となった。

* * *

【人民日報】

中国共産党中央委員会機関紙。1948年，中共華北局機関紙として創刊され，翌年，党中央委員会機関紙に昇格した。全中国の報道機関の頂点に立ち，報道内容は直接党・政府の政策・方針を反映し，中国を知るうえでも最も有力な新聞であるが，反面，党中央の権力を握る勢力や首脳のお考え方に左右さ

れる傾向が強い。85年、海外の華僑・華人、外国人読者のため「海外版」を創刊した。[岩波現代中国事典]

【解放軍報】

人民解放軍機関紙。1956年北京で創刊。67年より日刊となり、当初は軍内向けのみだったが87年より国内外に公開発行となった。[岩波現代中国事典]。

【新華月報】

内政・外交にわたる重要な文献・資料を集めた月刊誌。1949年11月北京で創刊。党と政府の重要文献はもちろん、指導者の講話と文章、中央の有力新聞・雑誌の社説、調査報告や経験の総括なども掲載されるため参考価値が高い。[岩波現代中国事典]

【紅旗】

中国共産党中央委員会発行の政治理論誌。1958年6月創刊、30年間続き、88年6月停刊。58年の8期5中全会で毛沢東が理論と実際を結合した革命理論誌を発行することを提議し、創刊を決定した。最初、半月刊だったが、65年から月刊となり、80年半月刊に戻った。停刊後、その役割は『求是』に引き継がれた。[岩波現代中国事典]